

二、大東亞各地

(一) 大東亞地域戰況

(1) 比島及中部太平洋方面

(イ) 「マニラ」東方ニ於テ、敵ハ重砲縱深陣ヲ展開シ、殊ニ「アンチボロ」附近ニ對スルソノ砲撃並ニ爆撃ハ逐次熾烈化シツツアリ。又「ラプナ」湖北岸ニ於テハ依然激戰繼續中ナリ。八日、敵ハ先ヅ「バシラン」島ニ上陸シ、次イデ、翌九日、「ミンダナオ」島「サンボアンガ」ニ上陸セリ。中部「ルソン」ニ於テ、「バヨンボン」ヲ目指セル敵ハ、「カラバリオ」山脈ヲ企圖シ、彼我ノ間ニ「カシモンバンテ」時ノ爭奪戰行ハレツツアリ。

(ロ) 「マリアナ」基地ノB29ハ、九—十日夜半、帝都ニ、最初ノ大規模夜間空襲ヲ行ヘルガ、罹災者、死者、行方不明ノ數ハ、大震災當時ニモ匹敵スルノ損害ヲ生ゼリ。敵ハ爾後名古屋、大阪、神戸ニ連續夜間大規模空襲ヲ行ヘリ。

(ハ) 硫黃島ニ於テハ、同島北端ニ壓迫セラレタル我軍ハ猶陣地ヲ堅持シツツ隨時反撃ニ出デ居ルガ、敵ハ十二日未明ヨリ全面攻勢ニ出デタリ。

(2) 印度支那方面

印度支那駐屯ノ我軍ハ、九日深更、一齊ニ行動ヲ開始シ、佛印軍隊及武装警察隊ノ武装ヲ解除シ、重要施設ヲ接收セリ。同方面北部ニ於テ若干ノ抵抗アリタルモ、戰闘ハ十二日迄ニ、概テ終熄セリ。

(3) 「ビルマ」方面

(イ) 東北方面、「ラシオ」ヲ目指セル在緬重慶軍ハ、七日、舊「ラシオ」、八日、新「ラシオ」ヲ占領シ、更ニ東南ニ進出セリ。尙敵ハ既ニ同地飛行場ノ使用ヲ開始セリ。

(ロ) 中部方面、「イラワジ」河東堤ニ沿ヒ南下セル英印軍ハ、七日、「マダヤ」及「オボ」ヲ占領、八日、「マンダレー」ニ到達シ、九日、同市郊外停車場ヲ占領セリ。目下同市内ニ於テ彼我白兵戰ヲ演ジツツアリ。尙同市北東及北方方面並ニ西方「ナズム」周邊ニ於テモ、熾烈ナル戰闘行ハレツツアリ。敵ハ「メイグテラ」飛行場群ニ侵入セルモ、我軍ハ西飛行場ヲ奪回セリ。

(ハ) 西南方面、「アラカン」地區ニ於テハ、海岸道路沿ヒニ南下中ノ敵西亞第八十一師ニ對シ、我軍ハ「タマンドウ」北方ニ於テ反撃ヲ加ヘツツアリ。

(二) 國民政府

華北政務委員會改組(第一五七頁參照)ニ對スル北支側反響ハ、新委員長ノ貫祿稍不足トナスモノアルモ、委員長以下首腦部ノ若返リニハ一般ニ清新ノ感ヲ與ヘ居レリ。殊ニ天津市長ノ拔擢、北京市政府其他ノ局長級ヘノ三十代青年ノ起用、政府ト新民會トノ人事交流ヲ實施ハ好評ヲ博シ居レリ。又委員長ト常務委員ノ大部分トハ多年ノ同志的結合ヲ有シ居ル關係上、氣分的ニモ頗ル明朗トナリタルモノノ如シ。

(三) 重慶

(1) 國共關係

蔣介石演説(第二七頁參照)ニ對シ、三月十一日、中共發言人ハ、中共側ハ蔣介石ヲ「フアツシスト」、反動主義者、惡漢、精神異常者ト思考シ居リ、全支那軍ガ改編サレザル限り、中共軍ハ米軍指揮官ヲ下ニ於テ戰闘ニ從事セザル旨發表セリ。

右演説ニ關シ、米國「ワシントン・ポスト」紙ハ、蔣ノ聲明ガ眞實ノモノナリヤ、又ハ中共ニ對スル「デモスチャー」ナリヤ不明瞭ニシテ、蔣ハ、大會召集ノ條件トシテ、中共側ノ承認困難ナルベキ其軍隊及邊區政府ニ對スル重慶軍及政府ノ統制ヲ承認スルヲ求メ居レルガ、支那統一ハ急務ナルヲ以テ結局兩黨ヨリ讓歩行ハル可シトナシ、紐育「ヘラルド・トリビューン」ハ、右ハ蔣ガ中央ト協定ニ達セントノ希望ヲ有シ居ルヲ示スモノナルモ、國共問題ハ極メテ複雑ニシテ、支那歴史上各黨及其指導者ガ自己ノ軍隊ヲ有セズシテ安全ナリシコト無カリシニ鑑ミ、中共側ガ其軍隊ノ重慶軍トノ合體ニ同意スルハ困難ナル可シ、國共會談ハ兩黨ノ指導者ガ自黨ノ内政上ノ立場ヲ考慮スルヨリモ、國家ノ安寧福祉ニ重キヲ置クニ至リタル場合ニノミ解決ス可シト論ジ居レリ。

(2) 内 政

(イ) 西北支那ニ於ケル航空輸送ヲ強化スル爲、中國航空公司ハ、三月十三日ヨリ肅州ヨリ蘭州へ、十八日ヨリ蘭州ヨリ哈爾濱ヘノ新航空路ヲ開始スル旨、十日、發表セリ。

(3) 米支關係

印度派遣重慶委員ニシテ米ノ貸與物資責任者タル「シー・ファ」(音譯)ハ、十日、米國ノ對支武器

(四) 佛印處理問題

貸與ハ、現在迄三億八千五百萬弗(全體ノ一、七五%)ニ達シ、「ヌチルウエル」公路ニ依ル輸送ハ行ハレ居ルモ、米國ノ支那ニ對スル武器貸與ハ著ルシクハ増加シ居ラズ、其大部分ハ軍需品ナリト發表セリ。

(1) 佛印處理問題

帝國政府ハ、戰局ノ推移ト最近露骨トナレル佛印官憲ノ親「ド・ゴール」政權ノ態度(第一三六頁、第一九二頁等參照)ニ鑑ミ、三月九日、松本大使ヲシテ、「ドク」總督ニ對シ、共同防衛ニ基ク協力ノ一層緊密化ニ付、具體案ヲ以テ申入レシメタル處、佛印側ハ所定時間後ニ至リ、米軍侵入ノ場合、日本軍指揮官ヲシテ作戰指導ノ責任ヲ負ハシムルコトニ付テノ抽象的承諾ハナシタルモ、佛印軍ヲ日本軍ノ指揮下編入等ノ具體的要求ニハ直ニ答ヘ得ザル旨回答シ來レリ。依ツテ同夜來、日本軍ハ佛印軍及武裝警察隊ノ武裝解除、軍事施設主要官衙及公共施設ノ接收、佛印側軍官十一日頃迄ニ略要人ノ保護等軍事上必要ナル最少限度ノ措置ヲ講ゼリ。右措置ハ順調ニ終了シ(第二五〇頁參照)、西貢等ニ於テハ既ニ印支銀行其ノ他接收諸事業ノ再開ニ着手中ナリ。尙廣州灣租借地ニ於テモ、十日、佛側ノ承諾ヲ以テ、駐屯部隊ノ武裝解除及諸機關諸施設ノ接收ヲ完了セリ。

(2) 右ニ關シ、十日政府ハ左記ノ聲明ヲ發表セリ。

帝國ハ印度支那ノ共同防衛ニ關スル佛蘭西ノ約定ニ基キ、終始一貫印度支那ニ於ケル佛蘭西官憲及軍隊ト協力シ、同方面ノ防衛ニ當リ來レルモ、戰局ノ推移ト共ニ佛蘭西出先官憲ノ態度ハ漸次變更ヲ來シ、米英等ノ印度支那攻撃ニ對シ共同防衛ノ實ヲ示サザルニ至レリ。

我が代表ハ、之ニ對シテ累次反省ヲ促シタルモ遂ニ其ノ效ナキヲ以テ、帝國軍隊ハ目前ニ迫レル敵ニ對シテ單獨ニ印度支那ヲ防衛セザルベカラザルニ立チ至レリ。即チ帝國軍隊ハ印度支那ノ防衛ノ爲敵性官憲ヲ排除シ、我ニ協力スル現地官憲ニハ援助ヲ與ヘ、以テ相共ニ協力シテ所期ノ目的ヲ達セントスルモノナリ。

以上ハ軍事上已ムヲ得ズ取リタル措置ニシテ、且之ヲ其ノ必要ナル最少限度ニ止ムルモノナリ。從ツテ帝國ハ何等印度支那ニ對シテ領土の企圖ヲ有スルモノニ非ルハ勿論ニシテ、東亞侵略ノ勢力ニ對シ其ノ郷土ヲ防衛セントスル印度支那ノ住民ニ對シテハ、有ラユル援助ヲ辭セザルベク、久シキニ互リテ強壓セラレタル彼等ノ民族の獨立實現ノ要望ハ、大東亞共同宣言ノ趣旨ニ基キ、全幅的ニ之ヲ支援スルモノナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス。

(3) 我方ノ對佛印措置ヲ見ルヤ、安南保大帝ハ、十一日、「ユエ」ニ於テ安南帝國ノ獨立ヲ宣言シ、佛安保護條約ノ廢棄ト獨立ノ宣言、大東亞宣言ノ趣旨ニ依ル共存共榮方針ノ實行對日協力ヲ内容トスル宣言ヲ發表セルガ、十三日、「カムボヂ」王ノ「ロドムシハスーク」モ亦、「ブノンブン」ニ於テ、同趣旨ノ宣言ヲ發表シ、獨立ヲ宣言セリ。

(4) 泰國政府ハ對佛印措置ニ關シ、我方ノ措置ヲ了解シ、諸般ノ協力的態度ニ出デ、緬甸政府モ亦同様ニシテ、特ニ「バーモ」總理ハ民心ニ動搖ヲ與ヘザル爲、十一日、新聞記者會見ヲ行ヒ、(イ)佛印ニ於ケル敵性分子排除ノ結果日本ノ地位及大東亞戰略態勢ノ強化セラレタルコト、(ロ)日本ハ大東亞共同宣言ノ趣旨ニ依リ印度支那住民ノ民族の獨立ヲ支援スルモノナルコト、(ハ)印支住民ノ利益ハ今後益増進セラルベキコトヲ説明セリ。

(5) 本件ニ關シ、「ド・ゴール」政權ハ、十日夜、佛印ニ於ケル抗日團體ハ、佛國政府ノ指令ニ從ヒ、聯合國側トノ共同作戰ニ參加ノ爲準備ヲナシ來レル處、今回、日本側ノ措置ハ、右準備ヲ覆ヘン爲ニ採リタル措置ニシテ、佛印軍ト來援聯合國軍トノ共同作戰確保ノ爲、佛國政府ハ聯合國政府ト緊密ナル聯絡ヲ採リツツアル旨ノ聲明書ヲ發セル旨ヲ發送セリ。

三、歐洲戰況

(一) 東部戰線

「クルランド」ニ於テ、蘇軍ハ攻撃ヲ續行シ居ルモ、進出ヲ示シ居ラズ。

西「プロシヤ」ノ蘇第二白露方面軍ハ、七日、「メーグ」及「プロイシツシュ・シュタルガルト」十二日、「デイルシヤウ」ヲ奪取シ、「ダンチヒ」ニ近接シツツアリ。同時ニ、「ゴーテン・ハーフェン」(グディニヤ)北方ニ於テ、「バルト」海進出ヲ計リ、「ノイシュタット」ノ獨陣ニ突入セリ。「グラッデンツ」ハ、七日、陥落セリ。

西「ボムメルン」ノ蘇第一白露方面軍ハ、「オーデル」東岸ノ諸都市ヲ攻略シ、「シエチン」對岸ノ獨橋頭堡ニ對シ、南方及東南方ヨリ攻撃ヲ加ヘ居レリ。又「キューヌストリン」ニ對シ、七日頃ヨリ攻撃ヲ開始シ、十二日、之ヲ占領セル旨發表セリ。

「シレジャ」ニ於テハ、獨軍ハ、七日、「ラウバン」ヲ奪回シ、「シエトリガウ」附近ニ於テ蘇軍ヲ包圍セリ。「シエアルツツナー」及「ラチポール」附近ニ於テ、十日頃ヨリ蘇軍ノ攻撃再開セラル。洪牙利ニ於テハ、獨軍ハ八日頃ヨリ「ブラツテン」湖兩側ニ於テ攻撃ニ出デ、陣地ヲ前進セシメ、且